

神戸っ子 昭和40年 5月15日 第一種郵便物認可 昭和41年 5月15日印刷 通巻62号 昭和41年 5月15日発行 毎月1回15日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

magazine kobekko

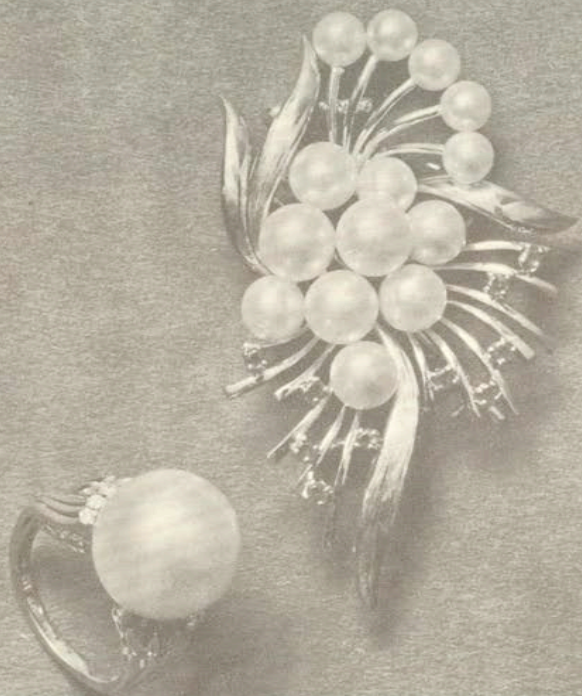
may/june

1966 no, 62

5・6



RIEUSO



真珠の代名詞ミキモト
世界のどこへいっても
ミキモトの名は
真珠を代表する言葉です
そしてミキモトパールは
あこがれと気品の
シンボルです



御木本真珠店

神戸店—三ノ宮・神戸国際会館

TEL 22-0062

大阪支店—堂島・新大ビル

TEL 363-0247

・大阪高島屋・阪神百貨店

★本店—東京・銀座四丁目

これは神戸を愛する人々の手帖です あなたのかぐらに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ これは神戸っ子の心の手帖です

W. J. H. a. l. a. d.



MADE IN
DENMARK

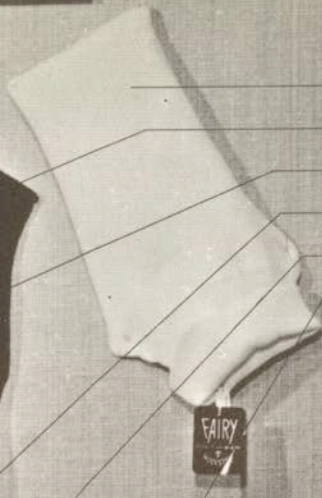
トランスグローバル

本 社 神 戸 (22) 2603

営 業 所 東 京 ・ 名 古 屋

特 約 店 ク ロ ス

トーマ・ロード(39)1781



¥ 7,500

¥ 7,500

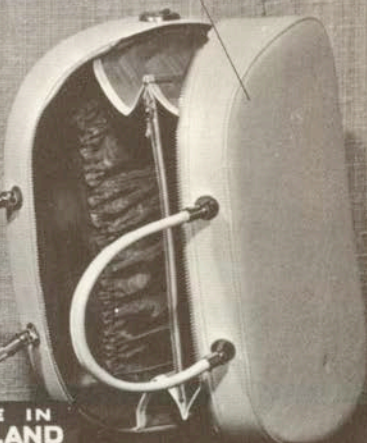
¥ 4,500

¥ 4,500

¥ 66,000

¥ 30,000

¥ 48,000



MADE IN
ENGLAND

佐々木美代子

（小泉製麻KK工務部）

カメラ／春田佳章
書／山路 梓

パキスタンから輸入されている黄麻の匂いが、工場に入ると酸っぱくたちこめている。機械の号音がつんざくなく、白い三角巾の帽子が、あちこち忙しく動く。

佐々木さんのパートは整経機の操作。巨大な糸巻きが立繰機に整然とならび、蜜が白い糸を吐くようにそこから麻糸をひきだして来る。一七二六本がベアになって、細かい櫛の目を通してゆく、糸が切れる。すばやく佐々木さんの手が糸をひきよせ補助糸を結ぶ。整経機から縦糸になって出ると織機が横糸をパターン、パターンとくみこまれて、巾広い麻布が織りあがる。

高知県中土佐育ちの佐々木さんはセブンティーン。すらつと伸びやかな肢体の清楚な織姫さんだ。小泉製麻へ来て三年。今は仕事もなれて日曜日の六甲登山が楽しみだという。西郷輝彦がごひいきでテレビはかかさない。千七百人の織姫が働くなかで千五百人が独身。平均年齢十八才七ヵ月という花の職場だが戦前の女工哀史は影をうすめ、織姫さまさまの世だそう。

（小泉製麻KK紡績工場で）



確信をもってタジマの目を選んだ世界の宝石の名品！



★白金ダイヤモンド指輪

Tajima
タジマ

*** 宝石店 ***

ダイヤモンドのことならタジマ / 神戸市元町通2丁目〈山側〉TEL ③ 0387・2552

タジマの特典 当店でお買上げのダイヤ指輪は販売価格で引取り交換をお約束しております。

甲斐武見

〈川崎車両KK車両工作部構体課〉

撮影／春田佳章
書／山路 梓

スマートな新幹線の超特急も、旧東海道の特急も、ここではまだ赤銅色の粗野な鉄骨である。溶接の火花と金属音のうなりが現場に満ちて、人の声はふっ飛んでしまう。車両の屋体はスピードが速くなるほどに、皮は薄く鋭びんに仕立てられて、飛行機に近い構造になっている。最近では鉄車両から総アルミの電車へと変貌している。甲斐さんは、この構体課の現場で二十一年というベテラン。若くても十五年の経験は必要という重要なパートだ。狭い車内の中と外から、はいずりまわるようにして溶接してゆく。激しい職場の甲斐さんが眼鏡をはずすとマジメな優しい顔が現われた。板宿の太山寺近くから毎日出勤するが、通勤電車に乗ると細かい窓の仕上げや部分がついに気になり、国鉄の列車に出逢うと外装ばかりみつめてしまうそうだ。無理もない。仕事熱心な甲斐さんは「やりがいのある職場です」といい切ると「こだま」の車両づくりに急いで屋根にかけ登っていった。四十才。





● Pearls by Tasaki



すぐれたデザインと品質によって

あなたの心をなごませ

優美な美しさをそえる

タサキパール

田崎真珠

本社・神戸市灘区旗塚通6-9
三宮店・神戸新聞会館秀品店内
銀座店・東京銀座西6丁目
ヒルトン店・東京ヒルトンホテル内
オータニ店・東京ホテルニューオータニ内
札幌店・札幌ホテル三愛内
支店・長崎・佐賀・熊本・鳥取・山口

ドーン・ドーンと大きな波がうちよせる須磨浦海岸。白い飛沫がとびちるなかから、黒い姿が浮かび出る。

一つ、二つ、三つ……六つ。

「神戸アクアラングクラブ」は、海の男たちの集まりである。海に潜ってさえいればごく気嫌がよい。思わぬ危険が突発する海中で行動を共にする仲間たちだけに、チーム・ワークは素晴らしい。毎年、夏になるとクラブに集まって、あれこれと潜水旅行の構想を話し合うのが楽しみだという。そのときには各地の施設の子供たちを訪問し、一日中童心にかえる。

またクラブ員のたぐい一つの不満は女性会員がいないということ。クラブ員が集まって祝福されながら挙げる「水中結婚式」を夢見る会員。若さとたくましさにあふれた、行動するクラブである。

写真左から平松信雄（自営）、西原基之（ディリースポーツ写真部）、上島章生（日本アクアラング株式会社）、村上忠一（日本油料検定協会）、田口晴彦（自営）、池原義明（栃木汽船神戸支店）当日欠席の会員大原一成（おちよば店主）、星野昌己（栃木汽船神戸支店）、岡崎斉（自営）、松野正司（日本アクアラング株式会社）、田中穂（日本アクアラング株式会社）、平松孝雄（自営）、斉藤和郎（神戸新聞写真部）、越智研一郎（神戸新聞社会部）。



ある集い

→ 神戸アクアラング ←
クラブ

Murata Pearls



Queenの輝きを
あなたに……

2 連チョーカー／ブレスレット

村田*真珠
銀座山岡*毛皮
マリークリスチン*舶来服飾

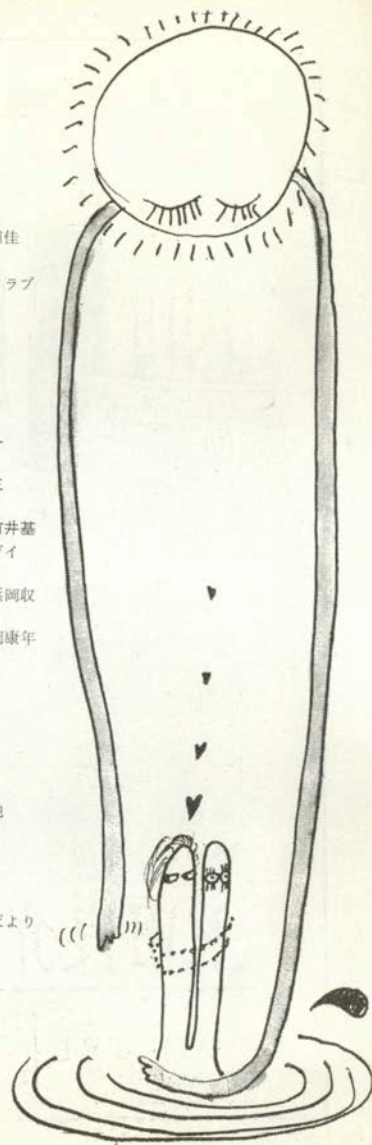
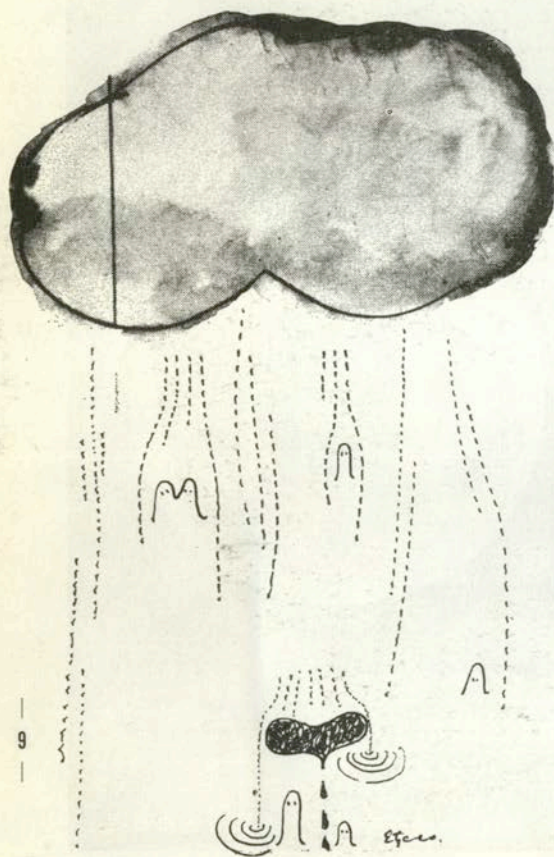


ムラタ

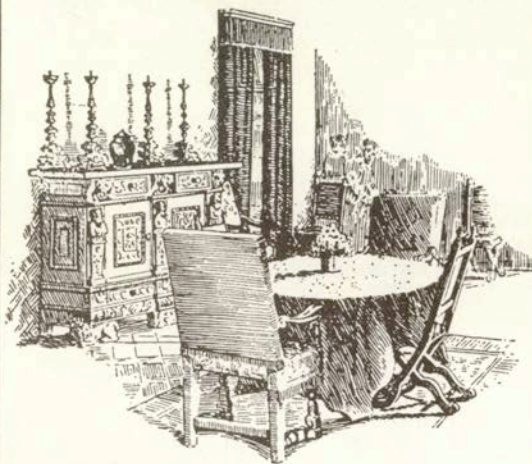
さんちか*レディスタウン・TEL 39 3886 - 7

5.6 月号 目次

- 1 SECOND COVER/絵・津高一
 - 3 グラビヤ/神戸っ子アングル・撮影/春田佳章<つくる>佐々大美女・甲斐武見
 - 7 グラビヤ/ある集い・神戸アクアラングクラブ
 - 11 わたしの意見/中村千鶴子
 - 12 随想四題/なつかしい神戸・五十嵐喜芳
インド旅情・松本宏
神戸っ子が泣く・細川隆一郎
美術館は出来るのだ・貝原六一
 - 16 ある集いその足あと/池原義明
 - 19 随想/神戸には懐かしい人がいる・中原淳一
 - 21 随想/神戸あれこれ・横塚繁
 - 23 随想/神戸に恋人をつくらねば・富田英三
 - 27 神戸っ子対談/小野一夫・竹田剛男
 - 33 神戸ドキュメント⑤/精神衛生相談所・有井基
 - 39 経済ポケット・ジャーナル/オフィスレディ
 - 40 映画のこと手当たり次第②③/淀川長治
 - 42 コニチツ船長さん②③/玉典章・撮影/浜岡収
 - 44 灯台のあるホテル/嗣代甲子朗
 - 47 東南アジア学生奇術きまぐれ旅行①/福岡康年
 - 48 神戸遊戯誌③④/水泳<1>・青木重雄
 - 50 動物園飼育日記1/亀井一成
 - 54 マドモアゼル神戸/福岡芳美
 - 57 髪/西野明
 - 63 ドイツの旅から/小林延光
 - 65 暮しのバラエティ27/夏を涼しく
 - 69 座談会/神戸と映画・淀川長治
杉山平一/力善博美/洛京介/戸田隆男他
 - 76 ばんく・こーなあ・<T>
 - 79 れんさいマンガ⑤ベッコ・永井文明
 - 80 神戸うまいもん巡礼 No. 45/赤尾兜子
 - 82 紳士入門/⑨転勤紳士・竹田洋太郎
 - 84 ポケットジャーナル/花時計/神戸百店会だより
 - 89 ING コーナー
 - 93 神戸っ子ひろば
 - 94 異人館物語第二話/ヘルマン屋敷の巻
シーメンズ事件第2回/小山牧子
 - 104 連載小説第四回/兵庫の女・武田繁太郎
 - 109 グラビヤ/カナディアンアカデミー
の松下体育館竣工/撮影諸方しげを
 - 112 グラビヤ/神戸銘店抄/陣舜至
- 表紙/小磯良平・カメラ/米田定藏
レイアウト/中辻悦子



家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ③ 9 3 7 3 7
3 7 3 9 }



を 子
き 菓
の ツ の
と イ 統
と る 味
憩 ひ 伝
飾 ド 風

バウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・クランツ



ドイツ菓子

Fackelmann's

ユ・ハイム

本店 神戸三宮生田神社前
TEL (33) 1694・8064
三宮店 神戸大丸前市電筋
TEL (33) 2101 (39) 3808
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン
TEL (39) 3 5 3 9

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

神戸市民の

ベンチを

中村千鶴子

〈神戸市議員〉

*わたしの意見



——五年ぶりに欧米をご覧になっていかがですか

「世界が五年という年月で非常に変ったということ。

どこへ行っても高層建築がたちならんで、自動車の混雑ぶりにちょっと味けない気がいたしました。西ドイツのボンとか、アメリカのワシントンなど世界の一番いいところを集めて作った新しい町の感じがしましたが、あれをみると日本の政治家が富士の裾野に政治の町をつくらうというもうなづける気がいたしますね」

——神戸の町についてはいかがですか

「いちばん外国を廻って感じた事は、市民の皆さんを町へひっぱりだしたいと思うことです。町中に市民のベンチをおきたいんですよ。公衆道徳をいくら口で云っても公園に座るところがなければ落ちつきません。海岸通りにも、公園のそばにもいたるところにもっとベンチをつくって、知らない人同志が話し合い、若い恋人同志が待ち合わせ、老人同志が話したり、子供たちは芝生へ入らずにベンチへ腰かけて遊ぶようにすれば大変楽しいことでしょう。嫁しゅうとめのケンカなんかなくなりますよ。

ベンチに座って外を良く見ると町にゴミの多いことに気がつくでしょうし、花は皆が見る花だと感じ、キャラメル紙くずはみんなでかたづけなくてはいけないんだということになって『人のふり見てわがふりなおせ』と実際の眼で教育が出来ますよ。家のなかにとじこもって、自分の家だけをきれいにする日本の家庭から、外を見て町の悪いところを市民が重視でき改善してゆける、中も外もきれいな家庭にならなければと思います。

広告をとってでもいいからきれいな市民のベンチをつくってみたいですネ。私は最低町に一万個はおいてほしい。そうすれば日本人の社交性もでて来て、人と人との心のふれあいも出て人間関係はおだやかになり、町は清潔になるでしょう。街路樹の下にきたないゴミバコをおくよりも、きれいな四人がけのベンチをおけばいいのです。外人とも気楽に話し合えますし、五大都市に先がけてユニークな町づくりになると思います」

□ 随想四題 □



カット／松本 宏

なつかしい
神戸

五十嵐 喜芳

三年半のイタリア留学生活の間、私は暇ができれば海岸をドライブした。ローマから約一時間のところにあるオステリアの海岸に

立ち、地球の裏側の日本にまでこの海は続いているのだなあと故国をなつかしく思うと同時に、生れ故郷である神戸の町を自然と思い出していたものだった。三十年昔の幼い頃、日曜日になると、海運業を営んでいた父の会社のボンボン蒸気船に乗って神戸港を巡り、外国汽船や軍艦をみながら父と一緒に過ごしたことなどを思い出して

いたのである。

ソビエットへ行った時のことだが、レーニングラードの演奏会の終了後、この地の音楽院に留学中の日本のヴァイオリニストのお嬢さん二人を連れて白夜の海へ行ったところ、お嬢さん達が海を見ながら泣き出してしまったことがある。それは、海を眺めて急に幼い頃の故郷を思い出しての涙だったのではないかと、その時私には想像された。

東京に住んで十四年になるけれど、仕事の関係で神戸へは月に一度くらいは行くことができる。大阪での仕事の後も大抵神戸へ足が向くのはやはり故郷だからだろう。友達も神戸に多い。ゴルフ友達として十人ぐらいいはいつでもOKなのがいて、神戸の夜を楽しむのに電話をかければすぐに集まる悪友連もいる。「おい」「お前」で呼び合う仲間は大人になってからだとなかなか得難い友人達だ。ゴルフをしても、この神戸連中と行くと、キャディさんが話をきいていて腹をかかえて笑い出し歩けなくなることもあって、その賑やかさはまた格別である。仕事はそれぞれ異なるが、こういう昔からの友人同志とは実によいもので、神戸ではいつも破目はずしてしまふ。悪友連中は、私の演奏会の

時にいつも応援してくれて、切符は売ってくれるし、プログラムの印刷を引受けてくれたりする。

今から八年前、私にマネージャーがなくて困っていると、自分の仕事を他人に任せて上京し、私の仕事を手伝って、それ以後とうとうマネージャーへと商売がえしたものがいる。今の私の仕事の片腕でもあるこのマネージャーは、もう東京で一本立ちして事務所を持ち、今度五月末に結婚することになった。四十才にして嫁をもらう、その仲人を私達夫婦がやるのだが、彼も神戸っ子である。

私は生れて七年間神戸に育ち、その後住吉町（当時住吉村で神戸市ではなかった）に移り、終戦の年まで住みついた。学生時代、用もないのに元町―三宮間をブラブラ歩いたこと。学校をサボって映画館に入り補導連盟にみつきり説教されたこと。家族そろってハイキングに六甲山へ登ったこと。小学生時代に、声がよいからとあちこちの音楽会へ出て歌ったこと。みな、ついこのあいだのこのように思い出す。そういう思い出のある神戸、海と山のみえる神戸に年をとったらもう一度住みたいというのは、東京などに住んでいる神戸生れの人の多くが考えることではないだろうか。△声楽家△

インド

旅情

松本 宏

ガンジス河流域、それにデカン高原の美術を中心にあわよくば風物のスケッチなども大いにやりたいたいのと、いささか欲張り過ぎた計画のもとに、二月中頃約一カ月の予定で印度へ発った。カルカッタを振り出しに、ヒンドウ教の聖地ベナレス、鹿野苑の名で知られているサルナート。そしてブタガヤ、バトナ、ゴラクプル、ラッタノール、デリー、マツーラ、アグラ、アジャンタ、エローラ、ボンベイなど異なる風物、気温のなかをおもに汽車やオンボロバスで廻った。車中より眺めたほとんど褐色の連続だったともいえる広大な景色。行く先さきの都会や田舎での体験は帰国後の現在、より鮮明で強烈なイメージとなりフォルムとなつて甦えつてくる。当地の二月、三月はまだ乾期であり、滞在中には一度の雨にもお目にかからなかった。

雲一つない紺碧の空。キラキラ眼に痛い太陽の明るさは、印度の風土に激しいコントラストと魅惑的な色彩を惜しみなく与えている。スモッグと騒音の小さな国か

らやって来たものにとつてはうらやましい限りであった。しかしこれらの雄大な景色と比べて、そこに住む人々の群れはすべてが明るい表情であったとは云いきれない。冥想的な宗教観や、昔からのカースト制度に支配されてか、その生活はおおむね原始的ですらあり、人種、言語、風俗習慣を異にする四億の人々が街や村を単位として孤立化しているようでもある。カルカッタでは難民の群れにシ

ョックを覚え、ベナレスでは聖なる河ガンジスに祈る人々の真摯な姿に心うたれた。デリーのオールドデリー、ニューデリーの対比も面白い。そして四〇度近い気温の中を熱風に煽られながら車をとばしたデカン高原の黄褐色の土砂と黒褐色の岩肌は今だに忘れられない豪快な景色である。デカン高原にはインドに現存する石窟寺院の八割以上があるといわれている。

アジャンタ、エローラ、ビタルコーラなどは特に有名であり、仏教ヒンドウ教、ジャイナ教などの石窟が太陽の下に惜しみなくその全貌を見せて豊満な神々の群れが刻まれている。豊満といえは印度の女性もこれに劣らず魅惑的でバスト、ヒップの素晴らしさなどすごいポリリウムであり古代彫刻の肉体美が誇張でなく素直に観られる

から不思議である。

この他、愛着をもってかけめくった寺院の数々、風俗のあれこれについては枚挙にいとまもないくらいだが一介の旅行者の部分的な印象からあの広大な印度、複雑な印度が解ろうはずもなく羽田へ着いたその時から今一度行ってみない気持ちにかられている。

▽洋画家・行動美術▽

神戸っ子が泣く

細川 隆一郎

「雨に濡れた展覧会」―。こういえば、ちよつとロマンティックかも知れないが、現実はそのようなものではない。昨春秋、それも原口市長の五選がきまった直後、神戸大学的美術グループ、「凌美会」が青天井の東遊園地で展覧会を開いた。適当な展覧会場がない。デパートや国際会館は会場使用料が高くて、とても学生の分際では借りることができないというのが学生たちのいい分だった。特設のテントの中で、期間中学生が不寝番、雨が降り出すとあわてて作品をテント内にひっぱりこむという惨めな作業をした、学生の作品だから、名画とはいえないが、雨に

濡れた力作“はいかにも情けない話だった。

▽：もう一つ、「まぼろしの公会堂」―。絵にかいたモチならぬ、三十年間眠りつづけた公会堂の青写真、資金の話である。昭和九年ごろの五円、十円というのは大した金だったが、これを市民各層から広く集め、神戸市の出資分二百万円とあわせて三百万円の公会堂建設基金が発足してから三十有余年。当時の金なら、ざっと計算しても十億円をこえる巨額になるか、戦争で計画中断、そのまま眠りつづけて、ことし四月、市の金庫の「退職基金」は千四百七十二万円。ことし中に八十一万円の利子を生む。なるほど少しづつふえてはいるが、とてもいまでは公会堂を建設できるような額ではない。市民の「執念」が沈潜したようなこの金を、このままなお情眼させておく手はないと思うのだが「帯に短かし」というところだろうか。▽：ポートアイランド六百億円、高架市電百六十億円、高速鉄道は一、三十億円、ハイウェイは一、約十億円。六甲トンネル二十億円。もう少し小さいところでは三宮地下駐車場六億七千万円、昨秋完成した中央体育館は約六億円。四十一年度の予算規模は兵庫県千二百億円、神戸市八百七十億円。数

字ばかり並べたが、文化会館は十億円でデラックスなものができるといふ。県、市折半すれば五億円づつ、しかも二、三年の年次計画でやれば財政負担はそんなに大きくないはずである。これをしも、ぜいたくというのであろうか、県はようやく、ことし、お座なりの調査費五十万円を予算化したが、神戸市はいまのところ「年次計画はない」と明言している。県は「神戸市が土地を提供すれば」といふ、神戸市は「県の施設を市内にもつとくれ」と反論するの、ここ数年、なにか公共施設をつくらうというときに、きまってしまう「論争」で県民、市民はもう聞きあきてゐる。

▽：県が金を出そうが、市が土地を提供しようが、神戸っ子にはあまり関心がある問題ではない。関心があるのは文化不毛という汚名を返上し、「文化的な神戸」を豊かに築き上げるため、六甲の緑をバックに、美しく、しかも整った文化会館ができるかどうかである。開港百年、県政百年のモニュメントとして、これほど適切なものはあるまい、文化のかおりは人々の心を豊かにする。雨に濡れる展覧会、まぼろしの公会堂はもうこのあたりで返上したい。そうでなければ、「神戸っ子」が泣く。

美術館は 出来るのだ

貝原 六一

「立派な美術館を建てます」

金井知事さんは、はっきりとした口調で私たち陳情者を前にしていわれた。

—美術館が出来るのだ—

私は報われた運動の成果に感動するよりも、何かほっとした気になった。

それは美術館をつくるということに、がむしゃらに突き進んで来たためかも知れないと私は思った。そしてただ胸の中で「美術館は出来るのだ」ということを、幾度となく繰返し自分自身にいい聞かせていた。

だから

「建物としてもよそに誇れるような立派なものを建てます……」

との知事さんのそれからの話も、後で気がついてみると、知事さんに悪かったが、何も彼も上の空で耳に入っていなかった。

「立派な美術館を建てます」

という知事さんの言葉は、言葉としては短い、その言葉を聞くまでは永かった。

それにはちょうど足掛け四年、

まる三年かかった。

三十八年の六月のはじめ、旧県庁の庁舎を、美術館に転用して欲しいとの趣旨の、陳情を出発点として集った、美術関係の団体は六十二あった。

その六十二の団体は毎年のように、自分達でも執拗だと思つてほど県の予算期を狙つては、繰返し繰返し陳情を行つた。

だがそうしているうち県当局のはっきりしない答に——県に美術館をつくる気がなければ、自分たちがどう陳情しても、出来ないのではないかと——との意見も、一部から出たが、私たちは「いやそんなことはない、県にはつくる意志があるのだが、財政上の問題で答が出にくいのだ」といって励まし運動を続けた。

そしてその陳情の内容も、その時その時の県当局の意向とにらみ合せて、旧庁舎転用から、旧庁舎転用が不可能ならば新設、そして新設一本槍と三転した。

その間私たち陳情関係者は、それぞれ自分の場において、美術館の必要さを説明し、他の団体をはじめ多くの人々に協力を求め続けて来た。

だがそうした皆の努力は実つたもちろん、そうした結果のかけには途中空しく座折はしたが、一

部の先輩にある過去の美術館設置運動のあったことが、私たちの運動の踏台として、何かにつけて私たちを励まし続けてくれていたことを、私たちは忘れてはいけなし、また多くの人びとが私たちの運動にたいする、理解や激励があつたことも忘れていないが、県当局の文化行政にたいする関心のたかまりも、抜いては考えられないと私たちは思っている。

—美術館は出来るのだ—

美術館は出来ることになつたが、これからがまた大変なことだと私は思う。

どんな形式の美術館をつくるのか、どんな美術館として運営してゆくのか、一つ一つが大きな問題であり課題なのだとは私は思う。

—建物としても、よそに誇れるような立派なものを—

と知事さんは私たちにいわれたが、経営企画の面でも、また、そうしたことを運営する組織の面でも、よそに誇れるような、立派な内容の美術館にして欲しいものと願っている。

私たちの美術館建設運動が出来るということで、終つたのではなく、そうした立派な内容の県立美術館が現実として出来るまで、続けていかなくてはならないと私は決心している。(洋西家・行動美術)



★ある集い★★★
 〓その足あと〓

神戸アクアラング

クラブ ハグラビヤ七頁参照

池原義明

「神戸アクアラングクラブ」は神戸で唯一のクラブである。昭和三十九年十月一日、潜水好きの者が集まりこのクラブを創った。

事務所を垂水にある私の家に置き庭の隅にアクアラング器具を入れる小屋をつくり、これをアクアハウスと呼んだ。水中銃、計器類などを置く廊下をアクア廊下、庭に植えてある松の木をアクア松と呼ぶほどの潜水キチガイの集まりで海の中の素晴らしさはそれほどに我々を魅了したのである。

また、潜水中思わぬ事故でいつ友から空気をもらう事があるかも知れない。(マウスピースの交換という)水の中での人間の力は弱いという事を知りぬいているクラブ員は実に強い友情で結ばれている。そして、クラブの厳しい会則を忠実に守って行動し、いまま

無事故を誇っている。

寒い日のことだった、垂水の海はすこし波があった。海に潜っていた大原氏がボツカリと浮き上り岸にあがって来た。顔色が少し悪い。岸にいたもの達が心配して「先輩(大原氏のこと)、どうしました」ときくと、黙ってフーッと大きなため息をついて、背からボンベをはずし、しばらくしてただひとこと「大きなエイが……」。垂水の海にエイが居るといふことは前から聞いてはいたが、実際に見たのはこのときがはじめてだった。大原氏が水深七メートル位のところを潜水、遊々していると岩のなくなった砂場の海底に、ネズミ色のこんもりと盛りあがった物体をみつけた。一体なんだろうかと近ずくと、それが直径一メートル以上もあるうかというエイ。一瞬、息をのんだトタンに身体が浮力が減り、スーッとエイの上ののしかかるように沈んでゆく。驚いてひと足けたその余波でエイもびっくり、海底をほうように逃げていった。という次第。陸では胆の太いことで定評の大原氏でも魚一匹にかくの如く驚く。もつとも水中では物体は一、五倍の大きさに拡大されて見える。また音の速さは空中の約五倍の速さで伝わる毎年、夏になると村上会長以下クラブ全員で須磨海岸のバトロー

ルをかって出る。炎天下に黒いゴムのウェット・スーツを着て歩くのはなかなか辛い仕事である。

ある夏、警察から六才の男の子が遊泳中に行方不明になったという連絡が入り、直ちにバトロール中の者をはじめ、クラブ員全員を集めて潜水捜査にあたった。

いつものことながら、潜水捜査は気持の良いものではない。どうか自分のところへは来ないようにとお互いに口にこそ出さないが、そのような気持がいつわりのないところだ。時間がきて浮上する心中は、自分の目の前に出てこなくてよかったと思う気持と、心配しながら今かと待ちわびる家族の方に申し訳ないと思う気持、とうとう探せなくてという気持が入りまじり、複雑である。岸にあがると警察の方が走って来る。

「申し訳ありませんでした。その坊やはすでに一人で家に帰っております。」「全くのあわて者だと、みんなで腹の底から大笑い。会員は現在十四名。みんな潜ることがなによりも好きだという連中ばかりである。

★「神戸アクアラングクラブ」では、アクアラング講習会を開きます。

ご希望の方はどしどしお申しこし下さい。

時期 七月中旬 約二十名

八月月中旬

約二十名

会費 一人 二、〇〇〇円

器具 一人 二、〇〇〇円

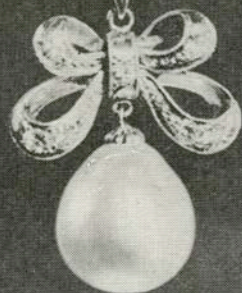
器具先はクラブで用意致します。

八連絡先 神戸市垂水区馬場通七ノ四

池原義明方

KITAMURA
PEARLS

世界の人々に
愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③3 0 0 7 2
オリエンタルホテル店 ③3 8 1 1 1 E X T. 331
東京：スキヤ橋店 TEL (571) 8 0 3 2



呉那保珠

みよーや

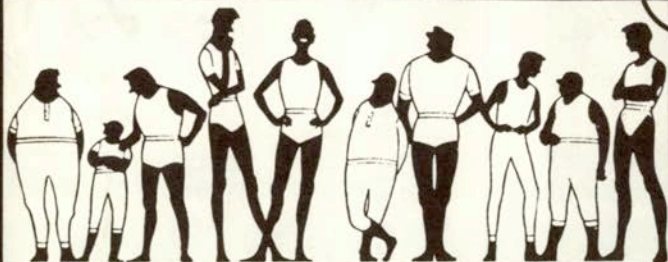
電話神戸③三三八八〇九番
トアロイド店
電話神戸③六五七七番
大阪店阪神百貨店三階
電話大阪(361)九五八四番
姫路店やまとやしき百貨店三階
電話姫路②三一二二番
衣菱部三宮町三丁目柳筋
電話③三五一六五番



カネボウの
海外独占提携品

アメリカから来た本場のスポーツウェア

ビュリタン BUURITAN



西ドイツの肌着

ノーサー SCHIESSER

★お近くの取扱店を＝〈三宮センター街〉イセヤシャツ ■やよい ■マック 〈三宮本通り〉松下洋品店 〈トアロード〉マック ■
元町二丁目〉神戸屋 〈元町四丁目〉キムラ屋洋品店 〈さんちかタウン〉KK・ふじ ■トイシン 〈新開地〉ハチ
ヤ洋品店 ■マック ■ちどりや洋品店 〈パークタウン〉小松屋本店 〈神戸の百貨店〉そごう ■大丸 ■三越
東灘森市場 門洋服店 〈青木市場〉大久保ふとん店 〈尼事デパート〉大黒屋 〈武庫元町〉ダイビ洋品店 〈明
石ステーションデパート〉赤松屋 ■洋服ラブ 〈西新町〉武田呉服店 〈社町〉こまどり 〈西脇〉キリン屋